



第16968号
海員組合

元気の源 健康管理
無事故の源 危険予知

各地区でコムスクを開催

現場の若手組合員集い

広島、名古屋

広島と名古屋のそれぞれの地区で、コムユニケーションスクールが開催され、現場の若手組合員が集い、労働関係の知識を養うとともに、組合員同士の交流と絆を深めた。

コムスクは全日本海員組合が主催する組合員を対象とした研修会。働く上で役立つ知識やルールをさまざまな講義を通して学び、全日本海員組合の活動も紹介する。カリキュラムにはアイスブレイクも取り入れ、初対面の方々の交流の仕方や打ち解け合う方法についても学び、体験する。

また、外航・水産・国内の全部門に通じる海員組合ならではのコムスクの特徴として、他社他業種の垣根を越えて現場組合員が経験などを語り合うことができ、交流を深めた。

業種越え 交流深める

〔中・四国地方支部 金子友貴 広通通信員〕9月6日から7日の2日間、青年組合員の交流を目的とした地方コムスクを広島市のホテルニューヒロデンで開催し、フェリー・旅客船、内航船で働く若者28人が参加した。今回のコムスクには研修アシスタントとして、本部と中・四国地方支部管内の執行部員と先任事務職員も参加した。

コムスク初日は、初めに開講式を行い、その後、NPO法人国際自然大学の講師によるアイスブレイクを実践。参加者全員の緊張を解きほぐした。続いて座学形式におけ

る各種講義が行われた。

「労働組合の存在意義」のカリキュラムでは、濱田俊英安全指導員から、海員組合の歴史と労働組合の重要性についての講義が行われた。続いて本組合の政治参与である中原好治広島県議会議員が「広島宇品港と戦時徴用船の歴史を学ぶ」と題して講義。同じく本組合の政治参与である太田憲二広島市議会議員からは「地域公共交通」として、公共交通の意義や国の支援の必要性、そして労働組合と政治活動の必要性について講義が行われた。

コムスク2日目には、全労済担当者による「各種共済について」、全日本海員福祉セ

見どころ多い「長崎」

異国文化にあふれた町

気軽にお散歩

長崎は港が開港されると、南蛮貿易の中心地としてにぎわいました。そして、多くの文化が入り込むようになり、教会なども建てられました。その後、江戸時代には鎖国政策が行われ、日本で唯一の貿易地として出島が造られました。

そのような歴史ある長崎には①「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録された旧グラバー住宅②長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産として名高い大浦天主堂③長崎の町を一望できる稲佐山④出島など、見どころがたくさんあります。

JR長崎駅で下車し、周辺

ンター担当者による「各種研修補助事業と、ねんきん共済制度」、中国労働金庫担当者による「ろうきんについて」のそれぞれの講義が行われ、コムスクの全日程は終了した。

最後に修了式が行われ、主催者を代表して齋藤洋中・四国地方支部長から「各種研修を通じ、広島近隣地区の各社組合員との親睦を深めながら、皆さんを取り巻く環境や組合の諸活動についてますます理解を深められたと思います。このコムスクでの経験が今後の業務や船務で役立てられ、組合活動への理解の一助となれば幸いです」とあいさつが述べられた。

また、研修最後に行ったアンケートでは、参加者から「他社の組合員と交流できて楽しかった」と「講義では、知らないことが多く、勉強になった」などの意見が多数寄せられた。

を散策してみました。

稲佐山

稲佐山は標高が333メートル。昭和34(1959)年に「長崎ロープウェイ」が開通し、眺望名所として多くの人に親しまれてきました。実際に山の頂上から景色を眺めてみると、さわやかな風を浴びながら、長崎市街中心の、港や緑あふれる光景を目のあたりにできます。

美しい夜景でも知られている稲佐山では、朝と夜でそれぞれ異なった、長崎市街を一望することができるでしょう。

長崎新地

中華街

横浜、神戸と並ぶ日本三大

中華街のうちのひとつである、長崎新地中華街。中華街の門をくぐると、たくさん提灯(ちょうちん)が出迎えてくれます。かつて貿易が盛んだったころの中国文化が、色濃く残っている場所です。

東西南北合わせて250メートルとやや小さめですが、その中に並び立つのは、中国の食文化の魅力がぎゅっと詰まったおいしい中華料理店。東西南北にそれぞれある青竜門や朱雀門など、好奇心を刺激してくれる場所も多くあります。

出島

江戸時代にただ一つ、ヨーロッパとの貿易が許され、西洋の食文化や学問が持ち込まれた出島は小さな扇形の島でした。ここでは、オランダ商館員の暮らしなどを再現した史料館があり、当時の生活を垣間見ることが出来ます。

国指定史跡にもなっており、2017年11月に出島表門橋が完成しています。当時は江戸町側の出島橋から出入りをしており、その時と同じ場所に橋が架かっています。

当時のことを思い描きながら橋を渡り、出島に入ってみるのも楽しみの一つとなるでしょう。

大浦天主堂

厳粛な印象を受ける大浦天主堂は、現存する日本最古の木造教会であり、世界文化遺産にも登録されています。教会内部は、施されている装飾と、薄く灯されている明かりから、神聖な雰囲気を感じられます。また、外観の白を基調とした色合いは清楚(そ)な印象。

創建から150年を越えた今では、長崎のシンボルともなっています。

(広報室)